

GWIは人身取引の被害女性と女兒に対する認識と保護を訴える

7月30日の人身取引反対世界デーに当たって、GWIはすべての人々、特に世界、国家、州、宗教界、法の執行機関および刑事司法機関、地域等の指導者に対し、1990年代以降人身取引が急激に増加してきたことを認めるよう強く求め、そしてこの極悪犯罪が増え続けているのに何もせず傍観しないように要請する。国際労働機関（ILO）によれば、世界で人身取引は犯罪の稼ぎ高においてもっとも急成長しており、年間1億5000万ドルの収益をあげ、そのうち女性・女兒・男児・若い男性の商業化された性的搾取が990億ドルを稼いでいる。

GWI Geeta Desai 会長は次のように述べる。「グローバリゼーションの最近の政策と方針の多くが人身取引の加速に寄与してきたとGWIは断定する。グローバリゼーションは多くの国における未曾有の貧困の原因になっている。犯罪者たちが不幸な被害者たちに雇用の約束をして家族や地域から引き離すため、この貧困こそ人身取引のゴールとプロセスを容易にしているのだ。すべての国の政府はその民が—最初は国の政策により、次は人を食い物にする犯罪者によって二度も不当に苦しめられないために、社会的セーフティネット、医療、食の安全と教育を提供して、彼らの安全を保証するようGWIは要請する。」注目のプレスリリースの全容は[ここ](#)。

米国大卒女性協会が聞くNyamalさんの教育遍歴

GWIにとって、Arcadia 大学国際平和紛争解決専攻修士課程大学院生である Nyamal Biel Tutdeal さんが米国大卒女性協会に答えて大学に至るまでの教育の道りを述べた大いに感銘を受けるインタビュー記事を分ち合えることは光栄である。Nyamal さんとその家族はスーダンの南部—現南スーダン—からの元難民であり、戦争によりエチオピアに避難した。エチオピアで戦争が勃発した時に一家はばらばらになったが、不屈の努力の末、米国サウス・ダコタで再び共に暮らせるようになった。

Nyamal さんは教育を継続するために非常に多くの障害を克服した—ことばの壁、米国の教育制度を親世代が知らなかったことによる指導の欠如、片親家庭における勉学と他の責務との両立、今も続く紛争に起因するトラウマなど。彼女は勉学に加えて、戦争を逃れた女性と女兒をエンパワーし、女性と女兒に尊厳と自立をとり戻させるために、基本的な生存必需品の供給を目指す NGO、NyaEden Foundation を最近創設した。

彼女は、故国を失った人々、難民やスーダン人の地域社会またアフリカ全体において国内難民となった人々と共に働くことを目指す。GWIはNyamalさんが語る心を鼓舞する物語を共有し、彼女の教育継続へのあくなき意志を称賛する。彼女はロールモデルであり、変革

と平和の唱道者である。インタビュー全文を読むには[ここ](#)。